センター通信

〒 123-0873　東京都足立区扇 1-12-20
TEL (03)3856-2728　FAX (03)5939-7880
URL　www.wfc.or.jp

優しさ実感　新型コロナ禍も糧に再始動

令和２年度は、緊急事態宣言発令中という異常事態の中で幕を開けました。各々のご家庭では、日々の生活に工夫を凝らされたことでしょう。テレワークが推進され、自宅で仕事をこなされた方も多かったかと思います。普段は見ることのできない親の働く姿を見て、その大変さを実感すると同時に、親と過ごす時間が増えて喜んだ子ども達も多かったと聞いております。当法人ではテレワークとはいかず職員は通常通りの出勤でしたが公共交通等は利用者が少なく、通常は電車に乗るのも大変な職員が座ってこられるという恩恵に預かることができました。定年退職後の再雇用の職員は5月末まで自宅待機とし、感染防止にも努めました。３密を避けるために、会議等は時間を制限し、引継ぎも各々場所を変えて現在も行っています。食事時間もグループに分けて、食堂でも3密にならぬように工夫しました。隔年に1度のチャリティ大バザーも来年に延期するなど、殆どの行事は延期または中止としました。

児童養護施設では学校が休みとなった上、遊びに行く場所も殆ど無く施設にて過ごす子どもが増えました。その支援に何かと苦慮している場面も見られましたが、職員と接する機会が増えたことにより信頼関係が構築でき、徐々に落ち着きを見せています。足立地区では、職員と子どもが一緒になって、入口の植え込みを整備し、花壇をしつらえました。今まで見えにくかった、施設の案内板もはっきりと見えるようになった上、色とりどりの花に、近隣の方々にも喜ばれています。今後も、３事業所協働で植え替えを行っていきたいと考えております。

自立援助ホームでは休職を強いられた子どもがいた反面、勤務量が増えた子どももいて様々でした。職員としては、このような時期に職場に送り出すのは心配でしたが、それなりに検温や日々の生活にも気を配り、免疫力を維持していくようにと支援をしました。

又、有難いことに多くの後援者の方からもマスクが購入しにくい時期に、手作りマスクを始め、何か所も動いてマスクを購入して送って下さった方もありました。いつも以上に多くの方が心にかけて下さっていることを実感した日々でもありました。

理事長に就任して３年が経ち、創始者長谷場の子ども達への熱い思いを踏襲しつつ、現代のニーズに合わせた法人経営を行うべく努めております。４月の大幅な人事異動は、将来を見据えての布石として若い世代に事業所長職を託しました。高齢児童専門の児童養護施設として独自の支援方法をベテランの園長・副園長と共に確立していき、若い寮長２名を任命した自立援助ホームでは、ベテランの寮長の指導の下に、創始者長谷場により確立されてきた支援方法を活用しつつ、現代のニーズに合わせていかれるように進めていきます。と同時に銀行出身者を本部の事務長として迎え、豊かな経験を活かして法人経営について積極的に進めていく予定です。新しい事業所長達にとっては、新型コロナウィルス感染拡大により外部との接触が制限され、事業所内の職員や子ども達との信頼関係を構築するのに、良い時期ともなったとも思っております。

１９５８年に始めた当時は戦災孤児でしたが、今では被虐待児が殆どで親がいても親元で過ごせない子ども達が多く、軽い障碍を持っている子ども達も多くいます。開始当時とは子ども達は勿論、周囲の環境も大きく変化しております。児童養護施設では中学卒業時点で退所だったのが高校まで行かれるようになりました。然し乍ら、多くの家庭では大学まで進むのが当たり前になってきているのが現状です。今後も少なくとも専門学校までは進めることができるようにと支援をしていきたいと考えています。幸いに自立援助ホームから上級学校に通う子どもは、卒業時まで在籍できるようにもなりました。能力のある子どもにはそれに見合った支援ができるように事業所間の連携を強化し、皆で努めたいと思っております。

各事業所単位で活動はしながらも、法人としての大きな目標に向かうために、お互いの立場を尊重しつつ、新しく加わった事業所長達を指導し次世代の職員も育成して参ります。

今回の社会情勢の変化で、今まで見えていなかった事が見えたこともあり、過ぎてみれば良き経験だったと言えるように、皆で力を合わせて多くの方々のご支援を頂きながら進んでまいります。今後も暖かい眼で見守ってくださいます様、よろしくお願い致します。

理事長　荒船旦子

新任事業所長挨拶

法人本部　事務長　森山 佳夫

４月１日より法人事務所の事務長として仕事をすることになり、身の引き締まる思いです。今まで、ニューヨークとジャカルタでの通算７年間の海外勤務を含めて、通貨の売買を行う通貨ディーラー及び海外企業への融資や海外企業の経営管理等の国際金融業務、また、輸出入金融及び金融派生商品等の融資規程の企画管理等国内金融業務の仕事を30年間してまいりました。その後、親の介護のこともあり、国内の建設会社で総務・経理関係の仕事を10年間してまいりました。社会福祉法人での仕事は初めてですが、40年間の各種業務経験を踏まえて精いっぱい新しい仕事に取り組んでいく所存です。青少年福祉センターには、児童養護施設と自立援助ホームがあり、「良い子を育て、次世代の担い手を育む」を基本理念として日々活動を行っております。法人事務所として組織的に各事業所の活動を支援し、各事業所と連携して、青少年福祉センターの活動の発展ために努力したいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。

児童養護施設　暁星学園　園長　黒川　円

園長に就任いたしました黒川円と申します。清周寮で寮長を９年、その前は暁星学園で児童指導員、職業訓練校の講師等を15年間経験し、古巣に戻った思いです。しかし、この10年間で児童福祉を取り巻く制度も子どもの様子も不登校児が増加し、非行・虞犯少年よりも精神的に大きな傷を負った子ども達も増えている等変化が大きく、一から学び直しと気を引き締めております。高齢児専門の児童養護施設である為、長くて６年、短いと１年以内で子ども達を自立まで導かなければなりません。子ども達に「安心・安全な生活」の場を提供し、社会的自立が出来るように全職員一丸となり頑張っていきたいと決意を新たにしております。年度当初よりコロナウィルス感染症の蔓延により、通常とは違う日々でしたが、子ども達・職員との時間を多く取る事が出来、結果的に良い方向に進んだと感じております。６月に入り子ども達も学校が始まり、私も同時に園長としてのスタートラインに立ち、身が引き締まる思いです。今後も皆様からの温かいご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

自立援助ホーム　清周寮　寮長　白石 英俊

寮長に就任いたしました白石英俊と申します。私は、暁星学園の中高生男子フロア、おうぎ寮で児童指導員として勤めて参りました。この度、女子15名の自立援助ホームとして地域に根差した歴史ある清周寮の寮長として、経済的・精神的な自立を目指す利用者のため、微力ではございますが尽力させて頂きたいと思っております。新型コロナウィルスは、社会に多大な影響を及ぼしておりますが、自ら寮費を納める利用者にも、休業に伴う収入の減少、接客の際の感染リスク、就労に必要なマスク不足など、その影響は枚挙に暇がありません。そして、職員もそんな利用者を支えるべく、日々奮闘しております。利用者と自立援助ホームを取り巻く環境や世相は異なっても、家庭の事情からホームで生活し、働きながら必要な資金とスキルを習得して、自立を目指すことに変わりはありません。そして、地域の皆様や後援者のご理解とご協力があるからこそ、運営方針である「自立した女性を育む」ことが出来ているのだと思っております。今後も、職員と力を合わせて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

自立援助ホーム　おうぎ寮　寮長　副島 有理

寮長に就任いたしました副島有理と申します。昨年度まで清周寮で８年、それ以前に暁星学園で２年、児童指導員として勤めてまいりました。男女混合かつ６名定員の施設形態は初めてで不安もありますが、これまでの経験を活かし業務に取り組む所存です。

おうぎ寮は、今年で開設15年目を迎えます。職員体制が大きく変わり、チーム構築からのスタートとなります。これまでおうぎ寮が積極的に取り組んできた個別対応や家庭的支援を継続していくとともに、就学・資格取得を推奨し、自立後の生活の見通しが立てられるように職員一丸となって支援していかれるように、気持ちを引き締めて努めてまいります。

新型コロナウィルス感染症の影響で、入寮している子ども達だけでなく、卒寮生の生活にも影響が出ています。目先のことだけでなく今後にも繋がる支援を行い、１日でも早く皆の笑顔が戻るよう努力してまいります。

今後も子ども達の生活に寄り添える家としての『おうぎ寮』であるように、精進してまいりますので、皆様方の温かいご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

近況報告

児童養護施設　暁星学園のようす
（定員　男女 30 名）

暁星学園では、４名が高校に進学しました。今回の新型コロナウィルスの影響で、入学式の中止や休校で、学校に行きたくても行けない状況が続いていました。オンライン HR や、オンライン授業が開始され、その対応にも追われました。

６月には登校の目処が立ちつつ分散登校も始まり、子ども達にとって、やっと新しいスタートを切ることができました。「行きたくない」「めんどくさい」と言いつつ笑顔で登校する子ども達を見ていると、温かい気持ちになります。登校できる喜びが表情に出ていたと感じました。

男子フロアでは、いつも旅行していたゴールデンウィークの行事も、出かける事ができなかったため、園内でハーバリウムと、布マスクを作る行事をすることにしました。材料から子ども達と買い出しに行き、一から作ることができました。子ども達も思った以上に楽しんでくれていたと思います。今回の新型コロナウィルスの影響で生活は制限されていましたが、日頃できないことができた良い期間だったと思います。

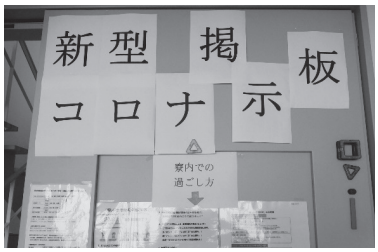
児童養護施設　あけの星学園のようす
（定員　男女 20 名）

新型コロナウィルス感染症の流行に伴い、あけの星学園では、職員と児童の毎日の検温、調理員の自宅待機、多人数の会議の中止、換気、消毒の徹底等の対策を行っています。

子ども達は学校が休校になり、卒業式も入学式も例年通りとは行かないまま新年度が始まりました。緊急事態宣言が発令され、自由に外出も出来ず次第にストレスが溜まっていく子も少なくありません。企画していた外出行事が出来なくなったため、各フロアの職員がステイホームをしている子ども達に楽しんでもらおうと、学園内での映画会やカラオケ、ゲーム大会、お花見、スイーツ食べ放題などの行事を企画しました。毎年恒例の裏山のタケノコ掘りも皆で行い、日々のストレスの発散にもなっている様子で楽しんでいました。休校中には学校から多くの課題が出ているため、職員と一緒に必死に取り組んでいます。学校が徐々に始まっているため、環境の変化に馴染めるよう支援して行きたいと思います。

緊急事態宣言が解除され少しずつ日常を取り戻して来ましたが、今後も油断せず対策を行っていきます。

自立援助ホーム　長谷場新宿寮のようす
（定員　男子 15 名）



今年度も長谷場新宿寮では、15 名程の寮生が仕事をしながら自立を目指して生活しております。その中で新型コロナウィルスの流行により緊急事態宣言が発令されるなど、年度初めから試練を迎える年となりました。

職場の休業や勤務時間短縮の対象となる寮生もおりましたが、不安や焦りを抱えながらも将来を見据え、時間を有効活用して自己研鑽する姿を見ることもできました。寮生たちへの手洗い、うがいの励行はもちろん、独自の対応として新型コロナウィルス掲示板を設け、都度、最新情報を確認できるようにして参りました。また、月に１度の寮生ミーティングをはじめ、夕食時などは３密状態を避けられるように机の間隔を空ける等、ハード面での工夫もしております。いまだ予断を許さぬ状況の中、寮生の安全を守り、安心して生活できる環境を保てるよう、より一層の力を入れて取り組んでいく所存です。寮生たちと共にこの難局を必ず乗り切ります！

自立援助ホーム　清周寮のようす
（定員　女子15名）

清周寮では、職員の異動や新任職員の加入もあり、新体制の中、全員で協力しつつ利用者との毎日を過ごしております。

４月中は新型コロナウィルスの影響で、利用者の勤務日数が減ったり、行事を開催できなかったりという状況がありました。しかし、５月のゴールデンウィーク明けには、利用者の仕事も再開する職場が増え、朝、仕事に送りだすという日常が、徐々に戻りつつあります。新型コロナウィルス対策として、うがい・手洗いやアルコール消毒を徹底して行うように声掛けをしたり、寮内のアルコール消毒を毎日したり、マスクの洗い方を教え、外出を自粛するように声掛けもしました。外出自粛中は、ストレス発散になればと、日々の食事を豪華にしたり、一緒にお菓子作りも行いました。

今年度は、専門学校への進学や、正社員での就職を目指す児童もおり、悩みを抱えながらも、日々目標に向かって頑張っております。彼女らが、目標や夢を叶えられるよう、これからも支援し、楽しい事や辛い事を一緒に経験していきたいと思っております。

自立援助ホーム　おうぎ寮のようす
（定員　男女６名）

現在、おうぎ寮では男女含む４名の子ども達が生活しています。その内２名が新型コロナウィルスの影響で店舗が休業し仕事のない状況となり、新たに仕事探しを始めても求人が少なく、収入のない毎日が続いていました。また、オープンキャンパスが軒並み中止となったことで、来年進学を希望している子どもの進路活動ができなくなるなど、様々な影響が出ました。仕事を失くした子ども達は職員の声掛けや本人たちの頑張りもあり、５月下旬現在、両名とも新しく仕事を始めることができ、進学を予定している子どもも、今できることを職員と協力しながら少しずつ行っている状況です。

退所者支援としては、生活への影響が懸念される退寮者に連絡を取り現状の把握を行い、新型コロナウィルスの影響で仕事が無くなったり、収入が減った方へ食料を送る等の支援を行っています。

４月に職員が新体制となり、子ども達とコミュニケーションを図りながら新たな日常の中で生活しています。新型コロナウィルスの感染拡大は依然として続いており、その影響が子ども達の生活に大きく影響していることを実感している日々です。

山中湖林間寮のようす

春休みからゴールデンウィークにかけて、利用者が多いのですが、新型コロナウィルス感染拡大の影響を受けてキャンセルが続き、春先の気持の良い時期に利用者の声が聞こえない寂しい状況でした。でも都内の施設の子ども達が３密を避けるために、休校に合わせて泊りに来ました。午前中は学校の勉強・宿題・掃除をし、皆でやると頑張れると言う声も聞かれました。午後は広いグラウンドで自転車、タイヤのブランコやハンモックで自然に囲まれ楽しく過ごしました。畑を作ろうと皆で力を合わせて開墾をし、秋の収穫を楽しみにしています。自粛も考え敷地内から出ることなく体を動かし、手洗い・うがい・アルコール消毒なども進んで取り組めました。又、山梨在住のご家族が、県外に出られないとの理由で利用されることもありました。今までとは違う理由での利用もあり、これを機会に大型遊興施設を利用しなくても、自然と親しみながら過ごす楽しみを感じて頂けたらと思います。

■■■■ 令和元年度法人内教養研修を終えて ■■■■

令和元年度法人内教養研修が「創始者　長谷場夏雄の信念、信仰、哲学を学ぶ」をテーマに実施されました。現在多くの職員が、法人の創始者である長谷場と面識がなく、創始者の思いを直接聞く機会はありません。現在法人は、児童養護施設２施設、自立援助ホーム３施設を運営する、職員100名の規模となりました。法人の状況は、創設当時と比べて大きく変化しましたが、創設者の思いや信念を、現職員に受け継がなければなりません。そのために、長谷場と親交の深い、野口氏の講義を受け、法人職員が、法人の成り立ちや歴史、創始者の思想、信念を学び、青少年福祉センターに勤める者として、法人の歴史を正しく理解し、日々の業務に当たれるよう研修を実施しました。

研修を受講した職員は、「法人のルーツが理解できた」「カトリックの思想がすばらしいと感じた」と感想を述べています。本研修は全職員が３年に一度受講することになっております。法人の成り立ちや創始者の思いを全職員が理解できるよう、今後もこのような研修を継続していきます。

人材育成委員会委員長　野館一郎

歳末餅つき大会

毎年12月に足立区扇の敷地で、地域の方も参加する餅つき大会を開催しております。地域と交流をする催しものの１つです。例年、法人を支援してくださるボランティア、地域の方、そして職員、利用者が参加して、臼と杵で餅をつき、出来立てのお餅を食べつつ、年の瀬と新しい年への無病息災を祈りつつ過ごす事を恒例としております。

今回開催するにあたり、法人として地域交流、地域貢献、法人事業の理解を深めていただく一環として、力士による餅つき大会を開催したらどうだろうという話になりました。いろいろ調べると、足立区内には栃東関を輩出している玉ノ井部屋があると分かり、理事長、常務理事、私も含めた担当委員とともに、お願いに上がりました。それを快くお受けいただき、この度初めて２人の力士をお迎えし、餅つき大会を開催することができました。

当日は、快晴となり青空のもと、私も含め多くの方が初めて直接力士とふれあい楽しい時間を過ごす事ができました。力士が杵を臼に打ち込むたびに、ドスン、ドスンと空気が震え、大変な迫力です。お餅の出来上がりも、我々素人がつきあげる半分の時間で終わり、味もことのほか美味しく感じました。

まさに縁起物の力餅でしたので、地域の方は勿論のこと、ボランティアの方、利用者、職員にとっても本当に良い時間でありました。

餅つき大会に力士を招く、初めての企画でしたが、ことのほか好評でしたので、これからは毎年開催し地域との交流の場、参加される皆が元気になるような、そんなイベントにして行きたいと思います。

この通信をご覧いただいた方、ご興味のある方は、ぜひお問い合わせの上、当日足をお運び頂き、力士の雄姿、出来立てのお餅をご賞味いただければと思います。

今年の年末にもこのイベントを開催し、力士の方から力を貰い、皆に元気になって欲しいと思います。

広報渉外委員会委員長　石丸正史

平成31年度決算書（資金収支計算書一部抜粋）

（単位：円）

				社会福祉事業					公益事業
	勘定科目 / 事業所	法人合計	法人本部	長谷場新宿寮	清周寮	おうぎ寮	暁星学園	あけの星学園	山中湖林間寮
経常収入	児童福祉事業収入	558,859,876	0	55,582,126	58,560,926	29,405,548	240,029,654	175,281,622	0
	寄附金収入	19,315,316	12,180,172	4,302,648	573,496	627,000	307,000	1,325,000	0
	雑収入（受取利息含む）	11,633,264	2,436,844	1,575,764	1,064,795	313,515	3,469,206	2,773,138	2
	収入計	589,808,456	14,617,016	61,460,538	60,199,217	30,346,063	243,805,860	179,379,760	2
経常支出	人件費支出	418,436,118	23,820,329	51,968,329	44,742,103	23,034,446	155,062,896	119,808,015	0
	事務費支出	65,134,258	17,195,709	5,853,509	3,190,952	1,990,337	22,539,318	13,163,553	1,200,880
	事業費支出	72,964,232	0	7,361,005	6,238,094	3,451,407	35,161,907	20,751,819	0
	雑支出（支払利息含む）	8,301,934	698,456	1,126,774	944,354	309,914	2,899,079	2,323,357	0
	支出計	564,836,542	41,714,494	66,309,617	55,115,503	28,786,104	215,663,200	156,046,744	1,200,880
	経常活動資金収支差額	24,971,914	−27,097,478	−4,849,079	5,083,714	1,559,959	28,142,660	23,333,016	−1,200,878

第12回青少年福祉センター成人式開催

令和2年1月11日、第12回青少年福祉センター成人式を、日暮里のホテル・ラングウッドにて開催致しました。本年は、51名の卒寮生、卒園生が成人を迎え、当日は仕事などの関係もあり男子12名、女子12名の合計24名が晴れ姿で集い、ご来場の皆様に祝福されました。

12年前、当時理事長であった児玉さんが法人で成人式を開催しましょうと、提案されたと記憶しています。すべてが0からのスタートだった為、事業所長を初め職員と手探りで準備を始めたことを思い出します。

当日出席頂いた、ご家族や関係者の皆様が見守る中、新成人の抱負を述べる卒寮生、卒園生たちの姿はセンターで生活している頃よりはるかに成長しており、頼もしくすら感じました。この仕事の醍醐味のひとつである「子どもたちの成長」を強く感じられる成人式は、携わる職員たちの励みにもなり、大きな力にもなります。

人生の大切な節目でもある成人式をこの様に行えるようになりましたのも、ご協力下さいました皆様方のお蔭と、感謝申し上げます。また、ご協賛くださいました企業・団体の方々にも感謝申し上げます。そして、新成人のみなさんのこれから歩みだす人生が、幸せなものとなりますように願っています。

アフターケア委員会委員長　松本耕造

— 成人式にご協賛くださいました企業・団体の方々に感謝申し上げます。—

一般社団法人　いけばなインターナショナル東京支部
国際ソロプチミスト東京 - 広尾
国際ソロプチミスト東京 - 弥生
東京西北ロータリークラブ
株式会社　エキップ
岡本　株式会社
株式会社　カタログハウス
株式会社　カネボウ化粧品
京都きもの友禅　株式会社
株式会社　コスモス
株式会社　シービージャパン
ゼブラ　株式会社
株式会社　タカキュー
株式会社　似鳥工務店
公益社団法人　程ヶ谷基金
マドラス　株式会社
株式会社　丸昌
株式会社　吉田
株式会社　ロフト
ホテル　ラングウッド

敬称略・順不同

編集後記

1月に、初めて法人の成人式に参加致しました。晴れやかな舞台で、卒園、卒寮した子ども達が、将来の抱負、職員・後援者様への感謝の言葉を述べていたのが耳に残ります。社会人になり、大人びた姿で壇上で話す新成人を見て、ある職員は、「入所中は良いことも、大変だったこともある。でも、こうして立派になった姿を見ると、胸が一杯になり言葉が出てこない」と話していました。このような場に参加できることは、職員として大きな喜びです。（瀬尾）